

くみひも 組紐の歴史と古技法「クテ打」の指操作法

<h2>1 クテ打とは？</h2>	<p>指や手に輪状の材料をかけて組むループ式（↔自由端式、ex 台組法、江戸組紐など）の古い組紐技法を指します。指操作法がアジア大陸から伝わり、のちにわが国独自の手操作法が生み出されました。前者は弥生時代前期末から中期前半の銅鐸とともに出土したものが最も古く、後者は平安時代後半から鎌倉時代初期に現れます。クテ（組手、く手、などと書く）とは、元は手操作法で材料を結びつける持ち手のことですが、指操作法も含めたこれらの総称としてクテ打と呼んでいます。</p> <p>なお、ループ式の組紐は世界各地の古技法や民俗例として見られます。ヨーロッパとアジアの二系統に大きく分かれ、アジアでは小指を操作して組む方法が一般的です。糸<紐<縄<綱。</p>
<h2>2 クテ打の歴史</h2>	<p>縄文時代 土器の縄文？、三内丸山遺跡の組物・紐、自由端式？</p> <p>弥生時代 「執轡如組」（手綱をとるように組んでいる様だ） ※『詩経』（中国最古の詩集、紀元前11～8世紀） 始皇帝1号銅車馬、後漢青銅貯貝器、ループ式最古？ 兵庫県松帆4号銅鐸の舌（分銅）を組紐でぶら下げる 中期後半以降に前漢の鏡が副葬されはじめる。 「漢委奴国王」志賀島金印 「金印紫綬、銀印青綬、、、銅鏡百枚、、、」魏志倭人伝</p> <p>古墳時代 6世紀 奈良県藤ノ木古墳、群馬県金井東裏遺跡 人物埴輪、挂甲・飛鳥寺塔心礎</p> <p>飛鳥時代 法隆寺宝物、高松塚古墳壁画、遣隋使・遣唐使</p> <p>奈良時代 東大寺正倉院伝世品ほか</p> <p>平安時代 後期に手操作法確立 ※遣唐使廃止、国風文化 →大鎧の成立、巖島神社平家納経巻緒等の高度化 →後の京都組（京くみひも）へ</p> <p>江戸時代 江戸組紐など台組法の確立 兵学書『止戈枢要』に「秘技」としてクテ打の記録</p> <p>明治時代 廢刀令や製紐機械と需要減少、和装→クテ打の衰退</p> <p>現代 道明、木下雅子らの研究、伝承者、クテ打復元</p>

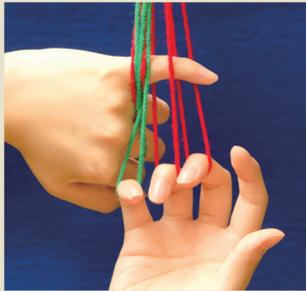
3 指操作法の基本

かくぐみ(くみ)
角組
 じゃばらくみ
蛇腹組
 しげ うち
重打

材料のループは3本、5本、7本など奇数本数が基本です。3本の場合は、片手の薬指と小指、もう片方は薬指にかけてください。あまった小指を反対の手の小指のループをくぐらせて、薬指の上糸を閉で取るか、開で取ります。5本の場合は中指を、7本の場合は人差し指を加えて、くぐるループを増やし、最奥の糸を取ります。左右とも閉を繰り返すと角組、開を繰り返すと蛇腹組、左右で開・閉を交互に繰り返すと重打になります。この3種が指操作法の基本組紐です。

閉→閉→閉・・・

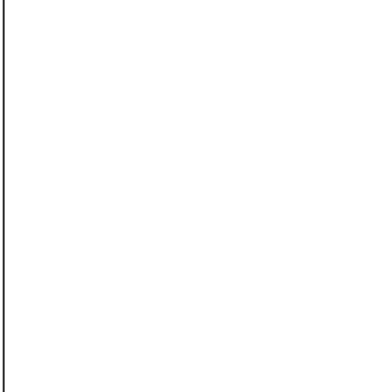
※【閉（へい）】手のひらを下向きに閉じて糸を取る



角組

開→開→開・・・

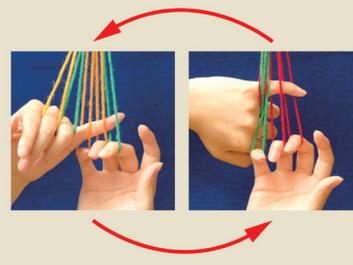
※【開（かい）】手のひらを上向きに開いたまま糸を取る



蛇腹組

開→閉→開・・・

※開と閉を交互に



重打

「組紐ストラップをつくろう」(公式 Web サイト)

市立市川考古博物館ではクテ打の体験学習（ワークショップ）を開催しています。週末を中心に毎月数回、無料です。混雑時はお待たせすることもあります。申込不要で参加できます。公式 Web サイトに掲載している開催予定をご覧のうえ、ぜひご来館ください。

